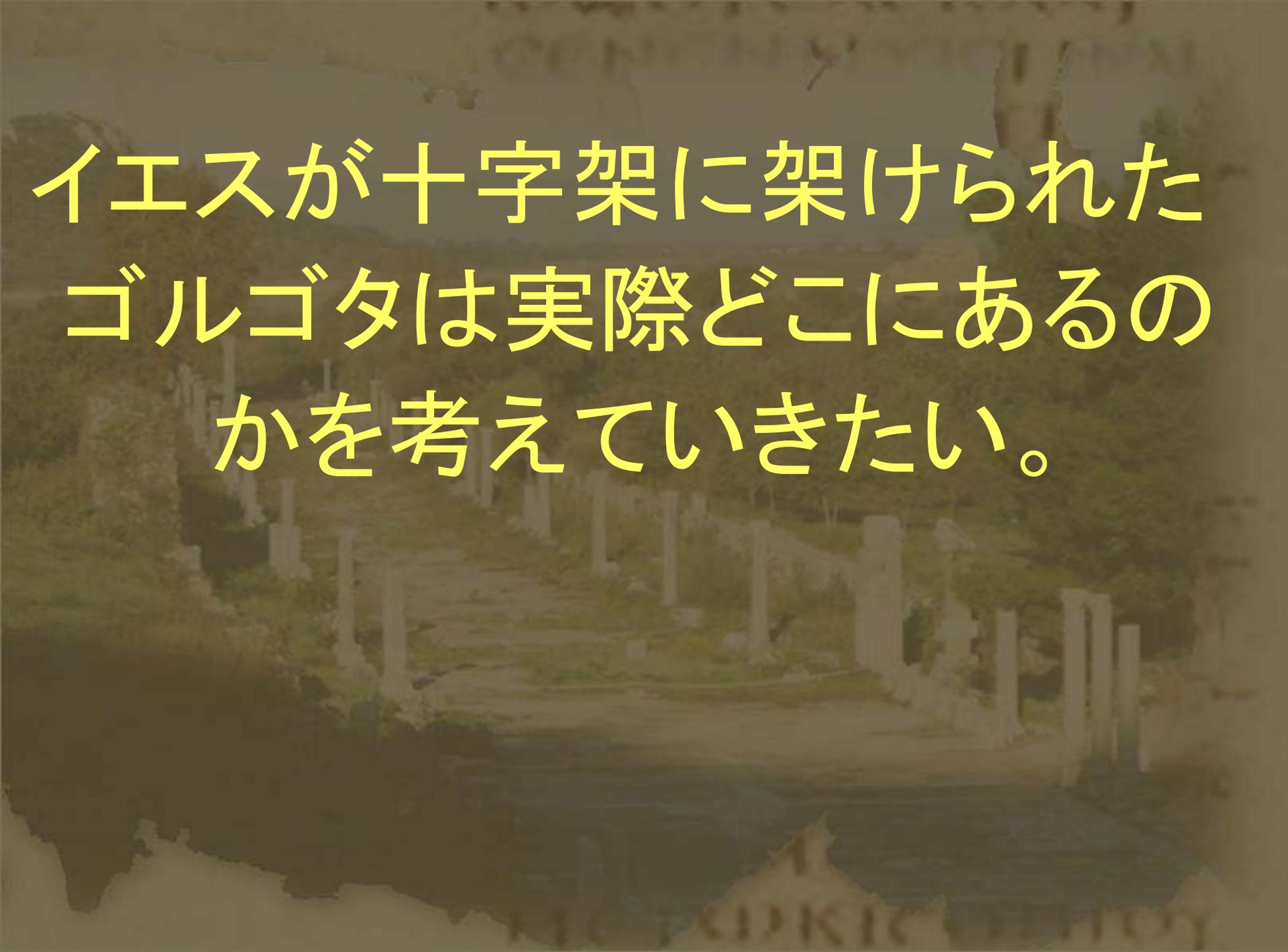




# 3章

## イエスの十字架

- 門の外と宿営の外 -



イエスが十字架に架けられた  
ゴルゴタは実際どこにあるの  
かを考えていきたい。

# イエスの十字架とイサクのいけにえの結び付き

- 一人息子
- いけにえになる人が無実である
- 木(材木)を運んだ
- 神様がいけにえを準備した(雄羊)
- ほぼ同じ場所?
- 神はアブラハムを止めた,しかし誰が神を止めたか?

# 1. 神殿の場所とイサクのいけにえ



## 創世記22: 2

神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

モリヤ山とは山岳の地域であった

## 第二歴代誌 3:1-2

ソロモンはエルサレムのモリヤ山で、主の神殿の建築を始めた。そこは、主が父ダビデに御自身を現され、ダビデがあらかじめ準備しておいた所で、かつてエブス人オルナンの麦打ち場があった。

建築を始めたのは、その治世第四年の第の月の二日であった。

## 創世記 22: 2

神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

## 創世記 22: 4

三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、

- イサクをいけにえにする場所: 3日かかり、頂上なので麦打ち場としては不適切であると考えられる
- アーネストマーティン(1996)によると麦打ち場は低い位置にあり、「パレスチナにおいて麦打ち場は、ほとんどの場合に森や木の茂みなどが無い場所を選んでいる」

モリヤ山で最も標高の高い地点はオリーブ山だった。

- しかし、その場所と、神殿が建てられた麦打ち場とは違う場所だった。

- 聖書学者はモリヤ地域を以下のように区別する- 神殿が建てられた下モリヤ山と、イサクがアブラハムの手によって殺されかけた上モリヤ。
- 神の神殿の場所とイサクのいけにえの場所は、モリヤ山として知られている同じ地域でも、二つの異なる場所だった。

## II. ゴルゴタの地とオリーブ山の関係



## 第二サムエル15: 30-32

はだしでオリーブ山の坂道を泣きながら上って行ったダビデは頭を覆い、。同行した兵士たちも皆、それぞれ頭を覆い、泣きながら上って行った。アヒトフェルがアブサロムの陰謀に加わったという知らせを受けて、ダビデは、「主よ、アヒトフェルの助言を愚かなものにしてください」と祈った。神を礼拝する頂上の場所に着くと、アルキ人フシャイがダビデを迎えた。上着は裂け、頭に土をかぶっていた。

ここで明らかにすることは:

- ダビデの時代にはもうすでにいけにえを献げる場所がオリーブ山に設けられていた。
- いけにえが献げられた場所は山の頂上である。

- 旧約聖書の七十七訳ギリシヤ語聖書（セプテュアゲンテ）ではこの頂上の場所を「頭」と呼んでいる。
- ゴルゴタという言葉にも「頭」という意味が含まれている。

ダグラス・ジャコビー (2001) によると:

「ギリシャ語の言葉クラニオン、*kranion* (マタイ27:33, マルコ 15:22, ルカ 22:33, ヨハネ19:17), は頭蓋骨または頭を意味します。この言葉の語源は、ホメロス時代のギリシア語カラ *kara* に由来するものであり、頭、天辺、頂上という意味です。クラニオン *kranion* がヘブライ語に訳されると多くの場合ゴルゴト *gulgoleth* に訳されます。

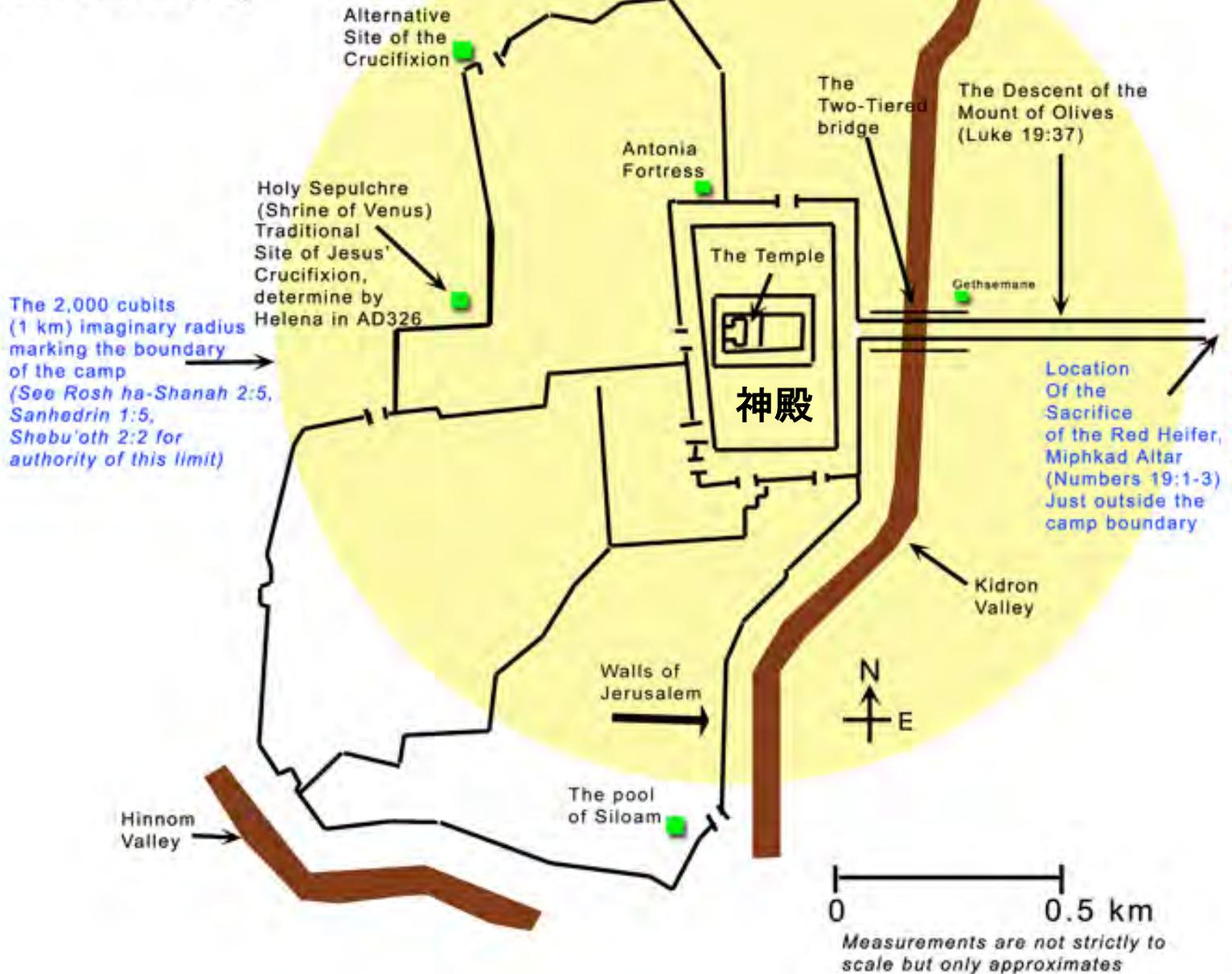
それに対し、ギリシア語のケファレ、*kephale* はヘブライ語のロシュ *ro 'sh* という言葉にいつでもではないですが訳されます。ロシュ *Ro' sh* は年の頭(始め)と使われるように(年の頭蓋骨ではなく)頭という意味があります。つまりゴルゴタという言葉は頭蓋骨と頭という両方の意味を有します。 続く。。。

## ジュコビー (2001), 続き

新約聖書において、頭蓋骨が(たいてい)クラニオン、kranionの申し分のないよい訳ではありませんが、セプティアギンテでは、その言葉は同等に頭という意味でも用いられています。このことは、ゴルゴタと第二サムエル15:32の頂上もしくはは頭というものの結び付きをより確信させるものとするでしょう。」

- 新約聖書でゴルゴタと呼ばれる場所が、オリブ山の頂上近くであったことを示すとても説得力ある主張であろう。この場所は第二サムエル15章に記されている神殿の山からは800メートル東にある。
- 第二サムエル15の場所 (地図1参考に)
- 現在この場所の上にイスラム教のモスクが建てられている。

# Location Of the Crucifixion of Jesus - "Outside the Camp" (Hebrews 13:12)



Mount of Olives  
オリブ山

- 現在、多くの観光客が、イエスの十字架の場所として、神殿の山の西に位置する場所に訪れている。そこは現在、聖墳墓が建っている場所。
- 歴史によると、この場所をゴルゴタとしたのは皇帝コンスタンチヌスの母ヘレナであった。

- パレスチナに当時住んでいた偉大な歴史学者 ユーセビウス氏はこの場所がゴルゴタの場所として選ばれたことに驚きを表した。
- 興味深いことは、この現在の間違った場所はかつてローマの神ビーナスの神殿が建てられていた場所だった。(マーティン, 1996). 地図 1

**Location Of the Crucifixion  
of Jesus - "Outside the Camp"  
(Hebrews 13:12)**

ゴルゴタと言われている  
もう一つの場所



Mount of Olives  
オリブ山

**本当の十字架の場所について他の証  
拠**

**イエスの十字架と赤毛の雌牛**

## ヘブライ書13: 12-13

それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。

- イエスの十字架は「門の外」そして「宿営の外」で行われた。
- 宿営の外とは神殿の外を意味するはずなので、いけにえが献げられた宿営の境界線の外に「祭壇」があったということになる。
- (基本的にいけにえの献げものは全て神殿内の祭壇で行われた)
- 宿営の外で行われたもので唯一重要ないけにえは、赤毛の雌牛だった。ヘブライ書の著者が記した十字架上のイエスと重なるものである。

- イエスの時代には、神殿の東門からオリーブ山の頂上を結ぶ道路を支えている2段のアーチ型の橋があった。
- これはキドロンの谷を渡るために大祭司たちが自費で建てたものであり、シェカリム4:2(ユダヤ人の文献)では赤毛の雌牛の長橋(もしくは橋)と呼ばれていた。(DARBY, 1933)

ルカ19: 37 によると:

イエスがオリーブ山の下り坂にさしかかられたとき、弟子の群れはこぞって、自分の見たあらゆる奇跡のことで喜び、声高らかに神を賛美し始めた。

「オリーブ山の下り坂道」という道があった。オリーブ山で献げものとなる動物を誘導するために使われたた橋は「赤毛の雌牛の橋」と呼ばれた。  
Shekalim 4:2 (Danby, 1933)

ヨハネ18: 1で使徒ヨハネがこの場所について:

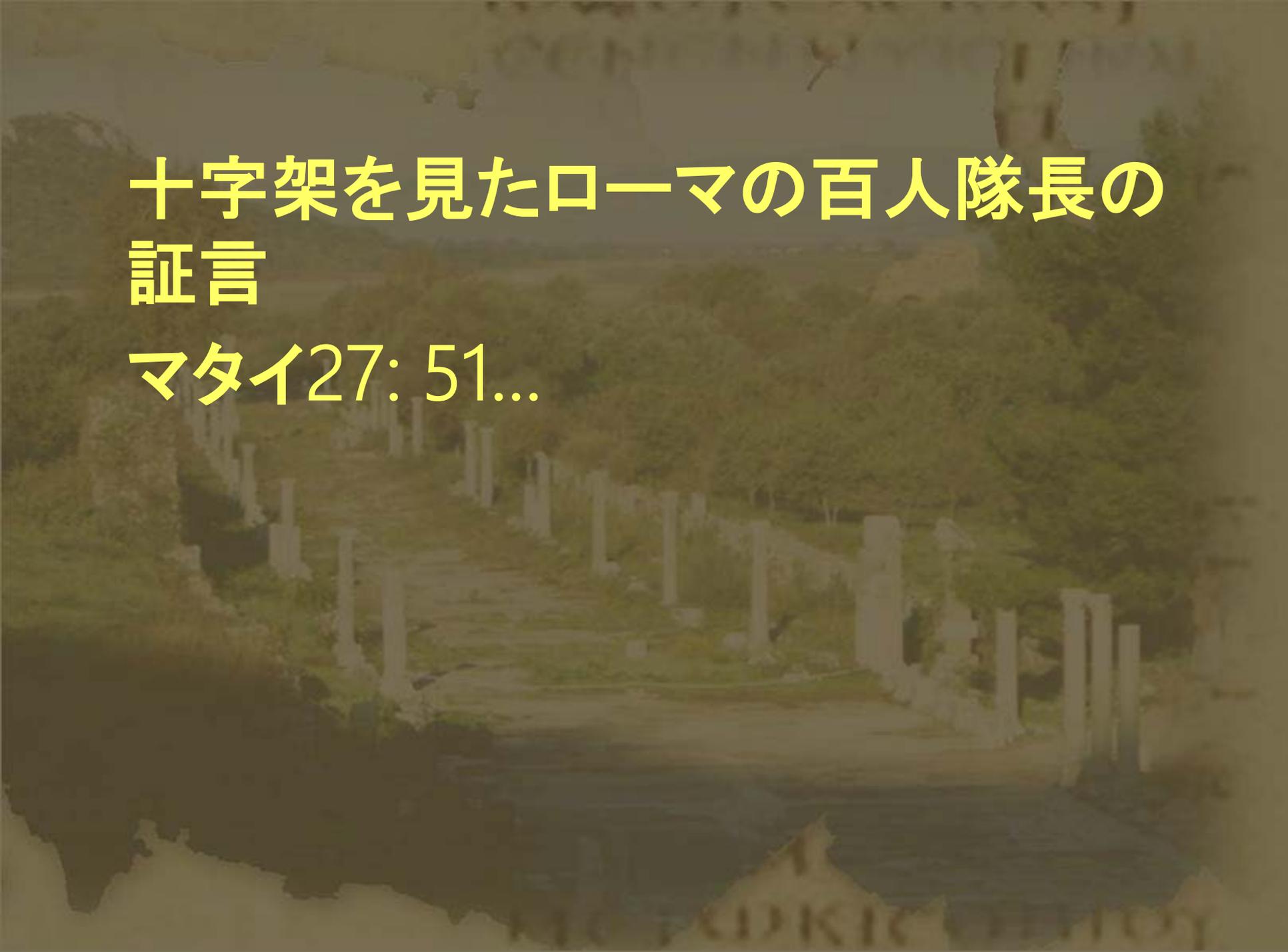
こう話し終わると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロンの谷の向こうへ出て行かれた。そこには園があり、イエスは弟子たちとその中に入られた。

## 民数記 19:1-3

主はモーセとアロンに仰せになった。

主の命じる教えの規定は次のとおりである。  
イスラエルの人々に告げて、まだ背に軛を  
負ったことがなく、無傷で、欠陥のない赤毛  
の雌牛を連れて来させなさい。それを祭司エ  
ルアザルに引き渡し、宿営の外に引き出して  
彼の前で屠る。

- レビ記中に記されているこの宿営の外の清い場所が、赤毛の雌牛がいけにえとされた場所。
- 赤毛の雌牛は、若くて、くびきを負ったことのないもしくは雄牛との交尾をしたことのない(処女の)雌牛だった。
- イスラエルの最も聖なる献げ物の一つだった。
- いけにえとなるのは通常、雄の動物であったのに対し、赤毛の雌牛は律法がいけにえに命じた唯一の雌の動物だった。

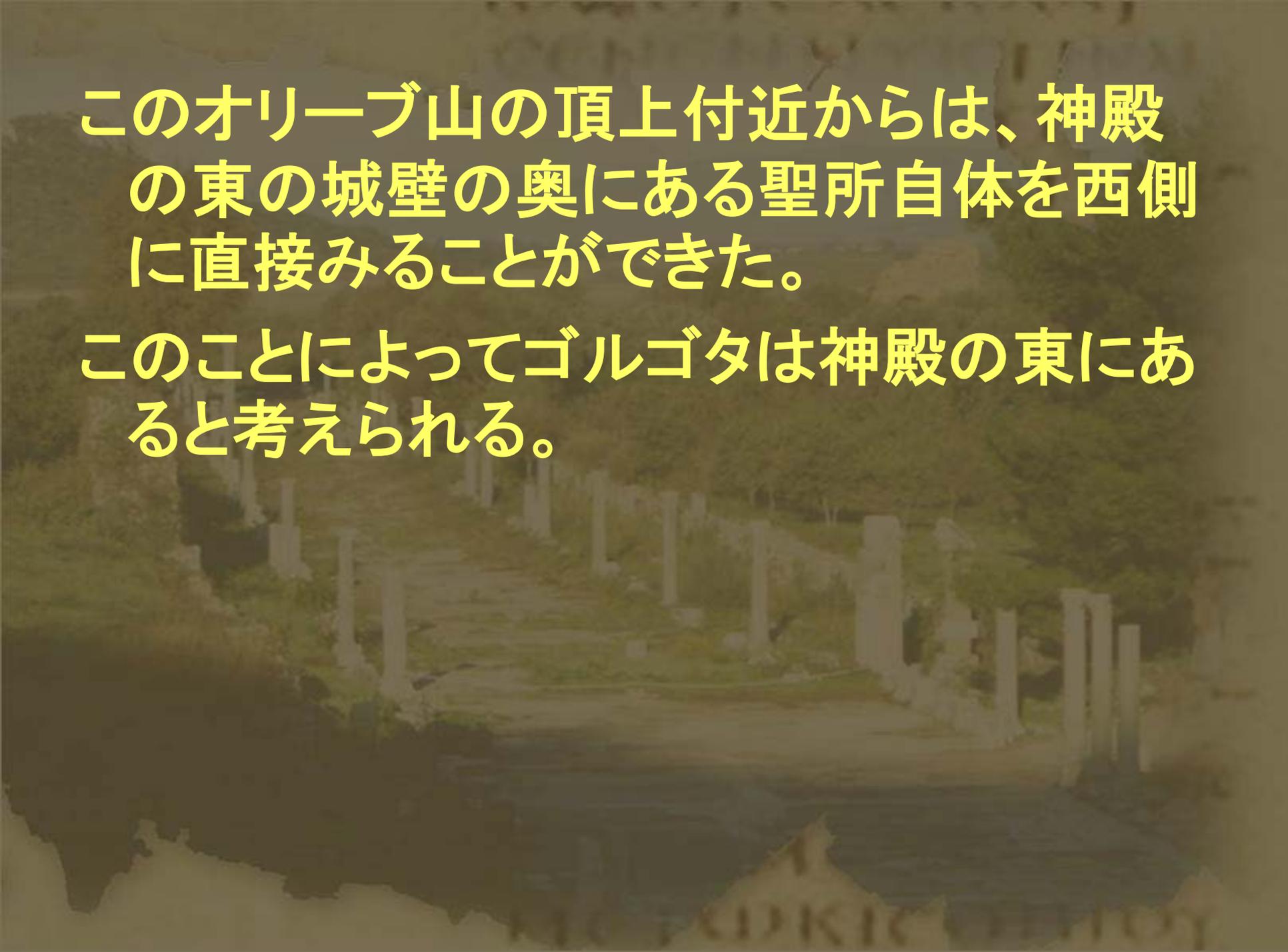


# 十字架を見たローマの百人隊長の 証言

マタイ27: 51...

このオリーブ山の頂上付近からは、神殿  
の東の城壁の奥にある聖所自体を西側  
に直接みることができた。

このことによってゴルゴタは神殿の東にあ  
ると考えられる。



## マタイ27: 51-54

そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

百人隊長が何を見てイエスを神の子と確信させたのか？

神殿の幕が二つに裂けたこと

- この光景は神殿の東側のオリーブ山の斜面から見たことができたもの。

- 神殿に向かって、南、北、西からはみることはできなかった。

(幕は高さ約25m、幅約8mだった)

ヨセフスユダヤ戦記V. 210-214

神殿の東の城壁が他の部分よりも低く建てられていた。

宿営の外でいけにえを献げる場所はミフカド祭壇  
*Miphkad Altar*と呼ばれ、最も重要な祭壇と言  
える。

全部で三つの祭壇があった:

- 1) 神殿の中に建てられた焼き尽くす献げ物のた  
めの祭壇
- 2) 神殿の中に建てられた香をたくための祭壇
- 3) 神殿の外に置かれたミフカドの祭壇、赤毛の雌  
牛のための祭壇

## 赤毛の雌牛とイエスのいけにえの類似点:

- 1) 両方とも宿営の外で行われた。
- 2) 赤毛の雌牛の灰は人々の罪を清めるための、清めの水に使用された(民数記19:9)。同様に、イエスの血は罪からわたしたちを清めるためのものである。
- 3) 清めの水(灰は水に混ぜられた)を振りかけられない者は誰でも、例えば死体に触れた後など、汚れた者とみなされた。同様にイエスの血と直接触れない人も神の目から汚れた者とみなされる。

4) 赤毛の雌牛の赤色はイエスの血と同じ赤色である。

5) 赤毛の雌牛のいけにえは、めったにないものであった。パラ3:5(DANBY, 1933)では、モーセの時代から九頭のみ赤毛の雌牛がいけにえとされたとある。

(モーセが一頭、エズラが二頭、エズラ後の時代に七頭)イエスのいけにえはたった一度、すべてのために献げられた。

イスラエルで1997年に赤毛の雌牛の発見 – 2000年ぶりに赤毛の雌牛の登場と言われている。ユダヤ人にとっては意味深い。

<http://www.bible-prophecy.com/redheifer.htm#Temple3>

## 宿営の境界線について考えると・・・

神殿は幕屋の後に形態化されたもので、モーセが幕屋の周りに命じた円形の、神殿とエルサレムの町を囲む「宿営の地城」の整理も行われた。この円形の地城はヨシュア3:4に言及されている門から約900メートル(2000キュービット: 一キュービット=約45CM)延ばされました。それゆえユダヤ人の指導者たちは約900メートルを宿営の境界とした。

## ヨシュア3:4

契約の箱との間には約二千アンマの距離をとり、それ以上近寄ってはならない。そうすれば、これまで一度も通ったことのない道であるが、あなたたちの行くべき道は分かる。」

# 宿営の境界線

- ロシヤ ハシヤー—Rosh ha-Shanah 2: 5  
(Danby, 1933)に記されているように神殿を  
囲んで2000キュービットの円形型の境界  
線
- エルサレムの城壁の東側の壁から800M  
(see Map 1)  
聖墳墓やその他伝統的にゴルゴタの場所と言わ  
れている所は宿営の中となってしまう

# Location Of the Crucifixion of Jesus - "Outside the Camp" (Hebrews 13:12)



宿營の境界線を測る  
2000キュービットの  
円形

- ミシュナ(ユダヤ人の律法の書)によると、サンヘドリン6:1 石投げの判決が下れば、石によって死刑にせよ。この死刑が行われる場所は神殿から遠い所で行われるべきであり、律法にはこのように記されている。

## レビ記24:14

冒涇した男を宿営の外に連れ出し、冒涇の言葉を聞いた者全員が手を男の頭に置いてから、共同体全体が彼を石で打ち殺す。

すべての死刑は宿営の外で行われるように命じられた。

- 死刑の判決にふさわしいと思ったユダヤ人の指導者の指示によってイエスは十字架につけられた。ミシュナに記されているように宿営の外に運ばれそこで、刑が行われた。
- つまりゴルゴタの場所は宿営の外、神殿の東側赤毛の雌牛の献げられた場所付近と考えられる。

キリストと宿営の外、恥の場に行く  
ヘブライ13:13,

だから、わたしたちは、イエスが  
受けられた辱めを担い、宿営の外  
に出て、そのみもとに赴こうでは  
ありませんか。

# キリストの屈辱



## 出エジプト記21: 32

もし、牛が男奴隸あるいは女奴隸を突いた場合は、銀三十シェケルをその主人に支払い、その牛は石で打ち殺されねばならない。

## マタイ 27:3

そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、

三十枚の銀貨が代価であった

イエスを裏切るための価値と、狂った牛のための賠償が同じ銀貨30枚だった

イエスの屈辱

## 宿営の外に自ら出る

- 時には孤独感、侮辱、世の人とは違う
- 人のために犠牲をする(いけにえとなる)
- 自分の境界線から一歩踏み出る
- キリストのために生きることによって侮辱を受ける

## 主イエス・キリストを見習って 私達は

- 人のために尽くしますか？
- 侮辱されても弟子として生きますか？
- どれほどの犠牲を払えますか？

## ヘブライ13: 12-13

それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。

だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。

## ガラテヤ 2:20

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

## ガラテヤ 6:14

しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。



The END